

## 論 文 要 旨

鹿児島大学

タイトル：立ち上がり時の介助の有無における立位での足指圧迫力と足指把持力の比較：地域在住高齢者を対象とした横断研究

Title: Comparison of toe pressure strength in the standing position and toe grip strength in association with the presence of assistance in standing up: a cross-sectional study in community-dwelling older adults

釜崎 大志郎 (Taishiro Kamasaki)

### 【要 旨】

**目的：**高齢者の立ち上がりには、従来の「座位での足指把持力」よりも、実際の動作に近い「立位での足指圧迫力」がより関連すると仮説を立てている。そこで本研究の目的は、高齢者を対象に立位での足指圧迫力と立ち上がり時の介助の有無の関連性を検討することである。また、関連の程度を座位での足指把持力と比較することとした。

**方法：**分析対象者は、地域在住高齢者95名（82±8歳、女性72%）であった。立ち上がり時の介助の必要性について口頭で評価した。身体機能として立位での足指圧迫力、足指把持力、握力、膝伸展筋力、開眼片脚立ち時間、最大歩行速度を測定した。

**結果：**立ち上がり時の介助の有無で比較すると、介助が必要なグループは介助が不要なグループに比べて、立位での足指圧迫力が有意に低値であった（ $p = 0.015$ ,  $ES = 0.53$ ）。また、交絡因子を調整した後の最終モデルでは、立位での足指圧力は立ち上がり時の介助の有無と有意に関連することが明らかになった（ $OR\ 0.94$  [ $0.88-0.99$ ,  $p = 0.025$ ]）。一方、足指把持力が強くても、立ち上がり時の介助が「ない」ことに寄与しない可能性があることが示された。

**結論：**立位での足指圧力は、高齢者の立ち上がり時の介助の有無と関連していた。立位での足指圧迫力は、立ち上がりに関する機能の中で重要な機能の一つである可能性がある。立位での足指圧迫力を向上させることで、高齢者の立ち上がり能力を改善できる可能性がある。